

## 平成30年度（第4回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月19日（金） 14時30分～16時20分
  - 2 開催場所 若宮小学校
  - 3 出席委員 松尾委員、山口委員、熊谷委員、後藤委員、柳谷委員、鹿多委員、望月委員、岡本委員、和田委員（9名）
  - 4 欠席委員 田上委員、林委員、高瀬委員、前川委員、宰務委員
  - 5 出席職員 田淵教育長、大西教育指導部長、平田教育指導部次長、山本教育指導部参事、福島社会教育・スポーツ振興課長、社会教育・スポーツ振興課（大山担当課長、川上副課長、尾崎地域家庭教育係長、今井書記、藤本書記）
  - 6 傍聴者 0名
  - 7 議事要旨
- 開会 14時30分  
委員長あいさつ、教育長あいさつ

### （協議事項）

- 1 地域総がかりの教育の推進について（現地調査）  
（社会教育・スポーツ振興課より放課後子ども教室について説明及び現地調査）

### 委員

私が少年団の役員をしている時に、子どもと一緒に将棋をやり、平岡南地区の将棋大会をしたことを思い出した。また、少年団のバレーボールチームをやっていたので懐かしく感じた。現在、地域のバレーボールチームはあるのか。

### 委員

尾上町、別府町の少年団のバレーボールチームで大会をしている。

### 委員

現在は、指導者不足等により無くなっているところも多い中、このように指導者を確保して、取り組み、また子どもたちはいろいろなことに興味を持っているので、学校園支援ボランティアにさせていただけるのはありがたいことだと思う。

### 委員

こういう時代になってしまったのだなと感じた。昔は、学校から帰ってきたら、地域のバレーボールやソフトボールに行っていた。地域の人に、かわいがってもらったり、怒られたりしながら、指導していただいていた。地域とのつながりがあり、地域の人に育ててもらっているという感じだった。今、学校でこのようにしかできないことが寂しい。帰るときも地区がそれぞれ異なるので、ばらばらに帰ることについて不安に思う。

### 地域家庭教育係長

チャレンジクラブ活動後は、保護者にお迎えに来ていただいている。また、児童クラブ利用者は、児童クラブに戻って活動を行っており、児童の安全確保に努めている。

委員

3時から4時という非常に短い時間にもかかわらず、活動いただいている人に対して、ありがたいという気持ちが強い。体を動かさないと病気になりやすい。どんな子でも、なにかできるような種目があることがすごくいい。たとえ週1回でも続けて行くことで何かが生まれると思う。クラブチームだと真剣なので笑いが出ない。チャレンジクラブは笑いが出るような環境。教育としては、楽しむことが大切で良い活動だと感じた。

委員

学校を使わなくても、地域でこういった取り組みができたらいいと感じた。志方では、児童館や公園などを活用できればと思う。地域の方がしてくれるのであれば、1時間に絞る必要もない。迎えに来てもらわなくても帰れるような場所でできたらと思いながら見学した。私は、支えあい協議会にも出席している。高齢者をどのように支えていくかという会議であるが、高齢者と子どもと一緒に遊ぶことで、お互いを支え合えることになるのではないかと感じた。

委員

こういう時代だからこそ機会を作るということは、良いシステムだと思う。活動のプログラムはアンケートをとって子どもたちの声が反映されている種目になっているのか。

地域家庭教育係長

ボランティアの方がどのような活動ができるかということで種目を設定している。

委員

今回見学して、受身的な取り組み方ではなく、ボランティアの方を中心に主体的に取り組まれていると感じた。

委員

ボランティアの人数をみていると、将棋の方が1名となっていた。風邪を引いたら活動できなくなってしまうので2名以上であるのが望ましい。児童の数に対して参加者が少ないと感じた。将棋で負けたら、子どもが悔しそうにしていた。楽しくやっているようで良かった。

委員

別府西小学校では、綱引きと手芸の2種目実施している。前任校では、将棋とドッチビーを実施していた。人気の種目がでてきたとき、ボランティアの数が足りないということがある。子ども会でソフトボールとバレーボールのチームがあるが、役員や当番など保護者の負担があり、人数が少なくなってきた。チャレンジクラブは、保護者が4時にお迎えに来ないといけないのがハードルが高い。子どもたちの受け皿が増え、地域の人や他学年の人とふれあいの機会が増えることは、非常に良いことだと考える。

委員

子どもの受け皿を作るために児童クラブやチャレンジクラブ事業を始めた。来年度から全校実施を予定しているということについては、素晴らしいと思う。今後は、子どもたちがやりたいことについても検討する必要があると考える。また、学校で実施すべきかという点についても疑問に思う。学校で実施するのであれば、学校もある程度は関わる必要があると感じた。いろいろ制約があるため、参加したいけどできない子どももいる。本当にやりたいことができる仕組みがあれば良いと思う。

## 委員

児童が楽しそうに取り組んでいた。それが原点ではないかと考える。ボランティアの方もご苦勞されている面もあると思うが、このように取り組んでいただき、ありがたい。楽しむことで次のステップに上がるときに違ってくるのではないと思う。昔、小学生のとき3年生になったら地域の人とソフトボールをやっていた。昔はつながりがあったが、今はもう無くなってしまった。スポーツに取り組む子どもたちの姿は尊いものである。ボランティアの方が少ないなど課題はあるが、できる限り環境を整えることが必要であると感じる。

## 地域家庭教育係長

チャレンジクラブのボランティアの方については、1回の活動にあたりボランティアポイントを50ポイント付与している。ポイントについては、個人で集めていただき、商品と交換したり、学校へ寄付したりすることもできる。

## 委員

欠席委員について、チャレンジクラブを個別に視察することはできるか。

## 地域家庭教育係長

個別に調整することは可能である。

## 地域家庭教育係長

今回いただいた意見は、今後のチャレンジクラブの運営に役立てていきたい。

1 教室のボランティアが1人だったり、手芸クラブだと時間内に作品を作らないといけない厳しい状況であるということは現場からも意見がでている。あわせて、来年度から全校実施を予定しているが、ボランティアの方々にさらにご協力いただく必要がある。今後ともご意見いただきたい。

## (報告事項)

- 1 東播磨・北播磨地区社会教育・公民館研究大会（10/16）の参加報告について  
（委員より報告）
- 2 兵庫県社会教育研究大会（11/14）について  
（地域家庭教育係長 報告）

## (その他)

なし

- 閉会 16時20分  
副委員長あいさつ

以上